

組織目標評価報告書（平成29年度）

部局名:

歯学部

部局長名:

浅海 淳一

目 標	目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
①教育領域	
①-1 目標	①-1 目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組
<p>教育研究組織改革の推進</p> <p>1) 教務委員会および歯学教育・国際交流推進センターを核として、歯学教育改革を推進する。</p> <p>2) 高度専門人材の育成に向けた歯学教育の質を保证するために、臨床実習担当教員(学外非常勤を含む)の資格審査の厳格化を行う。</p> <p>学びの強化のための諸施策の実施</p> <p>3) 2年次編入学制度への移行を伴う新しい教育体制において、60分授業・4学期制に基づく改革カリキュラム改革の最適化を図り、教育ニーズに応じて改良する。</p> <p>4) シミュレーションシステムやIT活用による効率的な教学システムの構築を進める。</p> <p>高大接続・入試改革の検討</p> <p>5) 高大接続改革答申の大学入試改革方針を踏まえて、「学力の3要素」を多面的・総合的に評価する入学選抜と広義の高大連携を推進する。</p> <p>実践型社会連携教育の推進</p> <p>6) 実践型社会連携教育プログラムを展開するため、学外医療機関から招聘する臨床教授、臨床准教授、臨床講師による臨床教育体制を推進する診療参加型臨床教育の充実を図り、周術期管理や在宅介護現場で活躍できる歯科医師を育てることができている教育システムの整備を推進する。</p> <p>全部局の学生派遣・留学生受入れプログラム並びに体制の強化・充実に基づく数値目標の達成</p> <p>7) 岡山大学歯学部短期留学制度(ODAPUS)の改良を進め、学内の協力体制を整え、協定校、国際窓会、海外事務所との連携を戦略的にすすめることによって学生派遣・留学生受入れの平成29年度数値目標の達成をめざす。</p>	<p>1)</p> <p>●「課題解決型高度人材養成プログラム」において、中間評価Aという形で、4年間の実績を残してきた。</p> <p>●2018年度から高年次教養科目として開講予定の「レギュラーサイエンス入門」を、必修専門教育科目として3年次4学期に開講し、実質的に高年次教養教育を前倒して実施した。</p> <p>●12月に召集した「歯学部教育点検・評価・改善専門委員会」において、FD講演会参加教員に対して行ったアンケート調査結果を踏まえて教務委員会内でWGを結成し、肥大化したカリキュラムの再検討を行う方針を決定した。</p> <p>2)</p> <p>●高度専門人材の育成に向けた歯学教育の質を保证するために、臨床実習担当教員の資格審査の厳格化を行った。</p> <p>3)</p> <p>●2年次編入学制度への移行を伴う新しい教育体制において、60分授業・4学期制に基づくカリキュラム改革の最適化を図った。教員にはFD講演会を開催し意識の浸透を図った。「歯学部教育点検・評価・改善委員会」を開催し、学生の意見も踏まえ、定期的にカリキュラム上の問題発見と課題解決を続けた。</p> <p>4)</p> <p>●企業と共同開発した在宅歯科診療教育用シミュレータを用いた「シミュレーション実習」によって、超高齢社会に対応した歯科医師を育成するための在宅・訪問歯科診療実習を充実する教育の充実を図った。</p> <p>●ネットワーク環境を整備・拡張、電子授業シリーズ等のICTを用いた学習をより円滑に行えるよう整備した。</p> <p>5)</p> <p>●高大接続改革を進めるため2018年度編入学試験から外部英語試験の採点化をすることを決め結果を評価することとした。</p> <p>●入学者選抜方法毎の成績に関する追跡調査を行い、2018年度国際バカロレア入試では2名の定員化を決めた。</p> <p>6)</p> <p>●実践型社会連携教育プログラムを展開するため、学外医療機関から招聘する臨床教授、臨床准教授、臨床講師による臨床教育体制を推進する診療参加型臨床教育の充実を図り、周術期管理や在宅介護現場で活躍できる歯科医師を育てることができている教育システムの整備を推進した。</p> <p>●文部科学省課題解決型高度医療人材養成プログラム「健康長寿社会を担う歯科医学教育改革-死生学や地域包括ケアモデルを導入した医療歯科連携教育体制の構築」に基づいて構築した。実践型社会連携教育プログラムの連携他大学による活用は広がり、「高度医療支援・周術期口腔機能管理実習」への他大学からの参加は4倍となった。</p> <p>7)</p> <p>●歯学部では本年度、3年次学生22名がODAPUSプログラムに参加した。またODAPUS2、3について対象学年を来年度から1年次まで拡大した。</p> <p>●ODAPUS for foreign studentsプログラムに基づき、ヨーロッパ、アジア、南米の協定締結大学から、2017年度は23名の留学生を受け入れた。これら学生に対しては、歯学部生自身の企画によるウェルカムパーティで交流を図る、或は独自のGコース必修科目「グローバルスタディ(国際研究)」において、学部生と共同研究に参加させ、相互のアカデミックなコミュニケーション能力の向上を図った。</p> <p>●新学部長を迎えたマドリード大学(タイ)、フィニステラエ大学(チリ)等へ赴き、交流継続を確認した。</p> <p>●チリ及びブラジルの国際同窓会を開催した。</p>
①-2 全学の組織目標との関連	①-2 大学全体への貢献
<p>1)、2)は① 教育研究組織改革の推進</p> <p>3)、4)は② 学びの強化のための諸施策の実施</p> <p>5)は③ 高大接続・入試改革の検討</p> <p>6)は⑥ 実践型社会連携教育の推進</p> <p>7)は⑦ 全部局の学生派遣・留学生受入れプログラム並びに体制の強化・充実に基づく数値目標の達成にそれぞれ対応している。</p>	<p>●文部科学省課題解決型高度医療人材養成プログラムでA評価を獲得し、2017年度補助金額の3%増額を得た。</p> <p>●2年次編入学制度への移行を伴う新しい教育体制において、60分授業・4学期制に基づくカリキュラム改革の最適化を図った。</p> <p>●2018年度国際バカロレア入試では2名の定員化を決めた。</p> <p>●2018年度編入学試験から外部英語試験の採点化をすることを決め結果を評価することとした。</p> <p>●22名の学生を海外派遣、23名の歯学部生を受け入れ、新たに4協定を結んだ。</p>
①-3 目標とする(重要視する)客観的指標	①-3 目標とする(重要視する)客観的指標を達成するための取組・達成状況
<p>1) 国家試験合格率</p> <p>2) 研修医マッチング率</p> <p>3) 交流協定数および留学生数</p>	<p>●2018年度国家試験合格率(新卒)93.9%と飛躍的に伸びた。研修歯科医マッチング率、100%。</p> <p>●部局間交流協定:2校、大学間交流協定:2校締結。</p> <p>●学生:海外派遣22名、受入れ23名。</p>
②研究領域	
②-1 目標	②-1 目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組
<p>研究大学「岡山大学」の構築</p> <p>1) 岡山大学が実施するプロジェクトへ歯学部の特徴を生かして協力、参画してゆく。</p> <p>2) 歯学系構成員による文部科学省科学研究費の申請および採択率は高く、特に申請数については上限に近づいている。これらの数値を維持しながら同一人による複数種目の申請を目指し、採択率のさらなる向上を図ることによって研究実施体制等の整備を行う。</p> <p>3) 超高齢社会における歯科に対するニーズの変化に対応し、歯学教育や研究を、有病者医療や在宅介護現場に適応させて行く。</p> <p>若手研究者の育成事業の推進</p> <p>4) 歯学部先端領域研究センターおよび歯学部共同利用施設の利便性の向上を図り、研究業績の向上を目指す。また、若手歯学系教員が主催する研究会である「BioForum」(平成25年から)、歯学部先端領域研究センターが主催するARCOCSセミナー(平成27年から)を継続し、学内外との共同研究の促進を図る。</p> <p>5) その他の研究活動は、研究科(歯学系)に準ずる。</p>	<p>1)</p> <p>●2018年度「橋渡し研究力推進プログラム」シーズ申請に9件応募した。</p> <p>●「課題解決型高度人材養成プログラム」において、中間評価Aという形で、4年間の実績を残した。この実績を生かし、2018年度に「課題解決型高度医療人材養成プログラム」の健康長寿社会の実現に寄与できる優れた医療人材の養成に医学部に協力して申請予定である。</p> <p>2)</p> <p>●文部科学省科学研究費の申請及び採択率に関して、歯学系及び歯科系教員(研究科十病院)による文部科学省科学研究費の継続&新規応募率97.0%、新規採択率41.7%、科研費保持教員率67.0%と高い水準を維持した。</p> <p>3)</p> <p>●文部科学省課題解決型高度医療人材養成プログラム「健康長寿社会を担う歯科医学教育改革-死生学や地域包括ケアモデルを導入した医療歯科連携教育体制の構築」に基づいて構築した。実践型社会連携教育プログラムの連携他大学による活用は広がり、「高度医療支援・周術期口腔機能管理実習」への他大学からの参加は4倍となった。</p> <p>●「在宅介護歯科医療実習」で、地域医療現場の臨床講師による成績評価を実施したところ、要改善点を認めたため来年度に向けて内容の再検討を開始した。</p> <p>●文部科学省課題解決型高度医療人材養成プログラム「健康長寿社会を担う歯科医学教育改革-死生学や地域包括ケアモデルを導入した医療歯科連携教育体制の構築」の一環で他大学にて開催された離島実習に参加した本学学生には、11月に開催した報告会にてその成果を発表させ、学年全員でそれを共有できるようにした。</p> <p>●4月から7月にかけて「採食・嚥下リハビリテーション従事者研修会 初級コース」を、6月から10月にかけて公開講座「入れ歯マイスター養成講座」を、また5月からは「岡山大学採食・嚥下障害研究会～食支援ネットワーク～」を開催している。加えて10月には日本口腔外科学会を後援し、市民公開講座において講演「口の役割と口にできる怖い病気の話」を提供した。</p> <p>4)</p> <p>●形態系共同研究室と機能系共同研究室を有機的に統合した歯学部共同利用施設の実験スペースを短期貸出制とし、セミナールームをホームページから予約できるようにしている。ARCOCSセミナーは毎月1回計12回、BioForumを年3回開催し分野を超えた、学外との共同研究の活性化を図っている。スタッフ、運営委員会、業績(英文編集本1冊、英文書籍(分担執筆)24冊、原著54編(内英文48編、総説2編)等、詳細は、ホームページに掲載している。(http://www.dent.okayama-u.ac.jp/arcoocs/bioforum.html))。</p>
②-2 全学の組織目標との関連	②-2 大学全体への貢献
<p>1)～3)は④ 研究大学「岡山大学」の構築</p> <p>4)は⑤ 若手研究者の育成事業の推進に対応している。</p>	<p>●「課題解決型高度人材養成プログラム」において、中間評価Aという形で、4年間の実績を残し、今後の継続発展に道筋を付けることができた。</p> <p>●文部科学省科学研究費の申請及び採択率に関して、歯学系及び歯科系教員(研究科十病院)による文部科学省科学研究費の継続&新規応募率97.0%、新規採択率41.7%、科研費保持教員率67.0%と高い水準を維持し、研究実施体制等の整備に貢献した。</p> <p>●Shanghai Ranking's Global Ranking of Academic Subjects 2017 - Dentistry & Oral Sciencesで、世界36位、国内3位になった。</p>
②-3 目標とする(重要視する)客観的指標	②-3 目標とする(重要視する)客観的指標を達成するための取組・達成状況
<p>1) 科学研究費の新規採択率</p> <p>2) 取得者率</p>	<p>●文部科学省科学研究費の申請及び採択率に関して、歯学系及び歯科系教員(研究科十病院)による文部科学省科学研究費の継続&新規応募率97.0%、新規採択率41.7%、科研費保持教員率67.0%と高い水準を維持した。</p> <p>●Shanghai Ranking's Global Ranking of Academic Subjects 2017 - Dentistry & Oral Sciencesで、世界36位、国内3位になった。</p>

③社会貢献(診療を含む)領域	
③-1 目標 1) 病院や研究科との連携を強化し社会貢献を効率良く実施するため、岡山歯学会、同窓会、関連組織(医療関係者等)と広く意見交換を行い、情報発信ができる社会貢献の体制を確立する。 2) 予防医学の立場から保健所等の地域行政機関と協力して、地域保健活動を行い、情報収集、情報提供を通して地域住民に貢献する。 3) 世界的に進められているグローバル化に対応するため、協定の締結を推進し、またすでに締結されている機関との交流をさらに活性化させることによって国際交流を推進する。 4) 地域医療については、大学病院に準ずる。	③-1 目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組 1) <ul style="list-style-type: none"> ●岡山大学公開講座として、「食支援ネットワーク」を定期的に開催し、多職種医療連携を促進し、人材の育成を進めた。 ●大学病院と連携して、中国・四国広域がんブロン養成コンソーシアムの一環として、「第9回歯科・口腔外科インテグレーション」及び「多職種連携でがん患者の食を支援する取り組み」等のワークショップを開催した。「在宅がん患者の食を支援する」をテーマに「Learninica」教材を制作した。 ●岡山県歯科医師会及び岡山大学病院との共催で、「いい歯の日」県民公開講座として、認知症をテーマとした講座を開催した。 ●厚生労働省造血幹細胞移植医療体制整備事業造血幹細胞移植推進拠点病院の認定に伴う事業の一環として造血幹細胞移植における口腔内管理の人材育成、教育、研究の充実を行った。 2) <ul style="list-style-type: none"> ●地域での歯科保健の推進を目指して、病院外での歯科保健事業に参画し、住民健診、健康イベント、事業所健診、学校健診などの機会を利用して、口腔の健康と全身の健康との関連などについて情報提供をしている。県内歯科医師会支部でのイベントで口腔がん検診を行い啓発を図っている。岡山市歯科医師会には、会員に対して早期発見のための口腔がん検診研修会を毎年開催している。 ●岡山市からの委託事業の一環として、岡山市多職種連携等調査研究事業研修会「がん治療と歯科治療」を開催した。がん治療を受けている患者における歯科治療・口腔ケアの標準的な方法を地域の歯科医療機関に広げ、岡山市内の医科歯科連携ネットワークづくりのために、岡山市との連絡会を開催した。 3) <ul style="list-style-type: none"> ●学生21名を7か国に派遣した。6か国から歯学部生を23名招き、ウエルカム事業、英語授業シリーズ(2単位)、食数集積地区等の見学旅行を実施した。 ●学生の交流事業は「JASSO奨学金の支援」により行い、来年度も、派遣、受入れ共に継続して採択された。教員レベルの国際交流事業は、JSTさくらサイエンスプランに2件採択、ベトナム北部2大学とインドネシア1大学から計7名の歯学部教員を招聘、共同研究を行った。 ●大学病院の歯科診療科に、ミャンマー(3名)、エジプト(1名)、及びパキスタン(1名)の歯科医師を臨床研修医として受け入れた。
③-2 全学の組織目標との関連 1)、2)は⑥実践型社会連携教育の推進 3)は⑦全部局の学生派遣・留学生受入れプログラム並びに体制の強化・充実に基づく数値目標の達成にそれぞれ対応している。	③-2 大学全体への貢献 ●文部科学省課題解決型高度医療人材養成プログラム選定事業「健康長寿社会を担う歯科医学教育改革—死生学や地域包括ケアモデルを導入した 医科歯科連携教育体制の構築—1の全国展開を推進した。 ●歯学部臨床実習において、在宅訪問歯科の実践を学ばせるために、 地域の歯科医療機関と連携して、全学生に在宅訪問歯科の現場での臨床実習 をさせた。 ●岡山市多職種連携等調査研究事業の委託を受け、 がん患者等への支持的な歯科医療連携を促進する連絡会 を設置、市内の医療関係者を対象に2回講習会を開催した。 ● 短期留学制度を推進し、海外派遣と受入れに貢献した。 ● 大学が推進するミャンマーとの交流を活発に生かした。 ● 口腔保健啓蒙活動や口腔がん検診 を行い、岡山大学の大きな役割としての地域貢献に努めた。
③-3 目標とする(重要視する)客観的指標 1) 診療報酬請求総額 2) 患者のべ総数 3) 部局間、大学間交流協定の締結数 4) 交換留学生の数	③-3 目標とする(重要視する)客観的指標を達成するための取組・達成状況 1) 診療報酬請求総額 :平成29年4月～平成30年1月までの診療報酬請求総額1,350,456円で、 昨年度よりも約5千万円(約4%)増加 した。全国国立大学歯科系附属病院4位(11校中)。 2) 患者のべ総数 :平成29年4月～平成30年1月までの外来総患者数は137,111人で、 昨年度よりも約4千5百人(約3.5%)増加 した。全国国立大学歯科系附属病院5位(11校中)。 3) 部局間交流協定:2校、大学間交流協定:2校 4) 派遣:21名、受入れ:23名
④管理運営領域	
④-1 目標 部局運営体制の改善強化、部局組織の活性化 1) 学部内資源の再配分による教員配置の最適化を進め、部局組織の活性化を図る。 ダイバーシティの推進(女性教員・外国人教員比率・次世代育成支援等) 2) 女性教員の採用および昇進、国内外の優秀な人材や将来性のある人材確保に努めダイバーシティを推進する。 施設整備の推進 3) 老朽化した歯学部棟改修計画を進める 法令遵守の徹底 4) 安全衛生および法律遵守のための講習会への参加を徹底する。ハラスメント事案への対応及びハラスメント防止に向けての体制の強化を図る。	④-1 目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組 1) <ul style="list-style-type: none"> ●歯学部RI実験施設は、歯学部発足時に建設され、1982年から運用されていたが、効率化を図るため、2017年度に廃止し、庶田施設に統合した。 ●歯学部動物実験施設は、歯学部発足時に建設され、1982年から運用されてきたが、効率化を図るため、利用をコンパクトにし、歯学部動物実験室とした。 2) <ul style="list-style-type: none"> ●女性教員の採用及び昇進、国内外の優秀な人材や将来性のある人材確保に努めダイバーシティを推進した。 3) <ul style="list-style-type: none"> ●歯学部棟の改修計画に関して、病院(歯科)改修WGを開催し、地階から3階まで(病院部分)の改修計画を進めた。 病院長の了解を得られた後、4階から上の計画に進む予定である。 4) <ul style="list-style-type: none"> ●安全衛生及び法律遵守のための講習会への参加を徹底した。ハラスメント事案への対応及びハラスメント防止に向けての体制の強化を図った。
④-2 全学の組織目標との関連 1)は部局運営体制の改善強化、部局組織の活性化 2)はダイバーシティの推進(女性教員・外国人教員比率・次世代育成支援等) 3)は施設整備の推進 4)は①法令遵守の徹底にそれぞれ対応している。	④-2 大学全体への貢献 ● 歯学部RI施設を廃止し、教員配置の最適化を進めた。 ● 歯学部教育・国際交流推進センターを併任し、教員配置の最適化を進めた。 ● 歯学部動物実験施設のコンパクト化を行った。 ● 女性教員数の割合は20.5%である。
④-3 目標とする(重要視する)客観的指標 1) 女性教員の割合 2) 安全衛生および法律遵守のための講習会への参加回数 参加数	④-3 目標とする(重要視する)客観的指標を達成するための取組・達成状況 1) 女性教員の割合 (H30.3.1現在): 122人中25人(20.5%) (研究科籍:84人中17人:20%、病院籍:38人中8人:21%) 2) 安全衛生及び法律遵守のための講習会への参加を徹底した。回数、参加数に関しては確認できなかった。
【総括記述欄】	
教育、研究、社会貢献すべてにおいてよい状況を保っている。教育においては、60分授業と4学期制に十分適応し、高年時教養教育を前倒しで実施するとともに、肥大化したカリキュラムに対して、大きな改革を継続している。社会情勢に合わせて、在宅・訪問歯科診療実習を補完する教育の充実を図り、ネットワーク環境を整備・拡張、電子授業シリーズ等のICTを用いた学習をより円滑に行えるよう整備を行っている。海外派遣及び受入れも順調に増加させ、国際化を進めている。国家試験合格率、研修医のマッチング率も良好である。「課題解決型高度人材養成プログラム」において、中間評価Aという形で、4年間の実績を残した。研究領域では、文部科学省科学研究費の申請及び採択率も高い水準を維持している。英文ISI掲載論文数、総被引用度数、1論文当たり相対被引用度数、国際共著率も1～3位を占めている。Shanghai Ranking's Global Ranking of Academic Subjects 2017 - Dentistry & Oral Sciencesで、世界36位、国内3位になったことは特筆すべきことである。歯学部先端領域研究センター活動も良好である。社会貢献では、地域での歯科保健の推進を目指して、病院外での歯科保健事業に参画し、住民健診、健康イベント、事業所健診、学校健診などの機会を利用して、口腔の健康と全身の健康との関連などについて情報提供をしている。4学期制を利用した研究室配属と短期留学制度を推進し、海外派遣と受入れに貢献した。大学が推進するミャンマーとの交流を活発に進めるなど国際交流をさらに推進した。口腔保健啓蒙活動や口腔がん検診を行い、岡山大学の大きな役割としての地域貢献に努めた。国際交流もこの1年で、部局間協定2校、大学間協定2校と締結し、活発な交流を進めている。患者のべ総数、診療報酬請求総額ともに昨年度を上回った。管理運営では、施設の廃止、統合を推進し、人員配置を見直し、再配置を行った。	